

活断層の重点的調査観測の対象選定について

平成 24 年 1 月 27 日

地震本部事務局

断層の重要度、地元自治体の要望等を総合的に検討した結果、来年度開始する活断層の重点的調査観測の対象として、立川断層帯を選定したい。

1. 立川断層帯を選定とする理由

立川断層帯で地震が発生した場合、社会経済活動に与える被害は大きい可能性が予想される。
~~また、平成 23 年東北地方太平洋沖地震とそれ以後の地殻変動による全国の主要活断層帯への影響を調査したところ、地震発生確率が高くなっている可能性がある主要活断層帯の一つとして、立川断層帯が列挙されている。~~一方で、立川断層帯では東京都等により様々な調査が実施されているが、断層の特性が完全に把握されている訳ではない。このため、新たな調査を実施することにより、長期評価の精度をさらに向上させることが地震リスク評価上重要である。また、他の断層と比較した場合、罹災人口及び地震後経過率が相対的に高く、地震が発生した場合の揺れの影響が大きく、地震発生の可能性も高いと推定される。地元自治体からは、調査に対して積極的に協力したいというご意見をいただいている。

なお、地震調査委員会では、断層モデルを設定して計算し推定したところ、立川断層帯は、平成 23 年東北地方太平洋沖地震とそれ以後の地殻変動の影響を受けている可能性がある」と公表している。

2. 立川断層帯で必要とされる調査

断層の活動性や活動履歴について、立川断層帯でトレンチ調査、群列ボーリング調査などを行い、より精度の高い情報を得る必要がある。また、揺れの推定には地下における断層の形状が大きく影響することから、地震波探査等により、地下深部における断層の分布状況・形状を調査する必要がある。